

**医療分野専攻留学生のための専門漢字教材の開発**  
Development of Kanji Learning Material for Foreign paramedical Students

石鍋浩（国際医療福祉大学）

ISHINABE Hiroshi (International University of Health and Welfare)

**要 旨**

医療分野を専攻する留学生は、専門漢字の学習に困難を抱えている。本研究では、医療分野専門6科目に出現する専門漢字の出現傾向調査に基づき、学習漢字306字を選定した。さらに選定した漢字について11課からなる教材の試用版を作成した。教材は、練習パート、家庭学習用ワークブック、索引から構成した。今後は、本教材の授業での試用を通し、学習効果などの検討を重ねていく必要があると考えられた。

Foreign paramedical Students have difficulty learning the kanji for technical paramedical terms. In this paper, frequency with which technical kanji appears was investigated, and 306 kanji were selected. At the same time, a pilot version of a textbook was edited. It contained 11 lessons, and each lesson had four tasks. Also, a workbook and indexes were available. It seemed that further studies are needed to analyze the effects of the textbook.

**【キーワード】** 医療分野，専門漢字，漢字出現傾向調査，漢字学習教材

**1. 背景**

医療分野の専門用語に使用される漢字（以下、専門漢字）は、留学生にとって学習上の困難点の一つである。専門漢字には、「橈」、「睫」、「褥」などがあり、「橈骨（とうこつ）」、「睫毛（しょうもう）」、「褥瘡（じょくそう）」のように使われる。これら専門漢字の多くは、日本語能力試験（以下、能力試験）の出題範囲を越え、留学生にとっては予備教育段階で未習の漢字である。したがって、各専門領域の概念学習と同時に漢字自体を新たに学習する必要がある。

専門漢字を含む用語は、場面や職業などによって使われ方が異なる。例えば、「橈骨」は、前腕の外側、手の母指側にある骨（井上2003）を表し、留学生にとって新出の語彙であることはもちろん、専門領域の者以外にも一般的に馴染みの薄い用語であると推察される。また、それを言い換える一般的な語彙もない。一方、「睫毛」はまつげを表し、「まつげ」という一般的な語彙であれば留学生も予備教育段階で学習済みの語であり、理解可能である。ただし、授業中や医療スタッフとのやり取りでは「睫毛」を使い、患者とのコミュニケーション場面では「まつげ」を使うなど、場面に応じた使い分けをすることを学習する必要がある。さらに、「褥瘡」は一般的な語彙では「床ずれ」を表すが、「まつげ」と違って能力試験範囲外であるため、留学生にとっては「褥瘡」「床ずれ」とも新出の語彙である可能性が高く、新出漢字としての「褥瘡」の学習、新出語彙としての「褥瘡」と「床ずれ」の学習、そして両者が場面によってどのように使い分けられるかも学習する必要がある。加えて、専門漢字のうち正字と異体字が存在する場合も少なからずあり、教科書など書籍の中でどちらの字体が使われるかは出版社によって異なり、双方の学習が必要となる。ま

たとえば、「橈」の異体字（木へんに「堯」）は一般的なPCの日本語入力システムには登録されていないなど、知識がないと入力時に戸惑い、レポート作成時に支障をきたす可能性もある。

以上のように、専門漢字には未習漢字が多数ある点、概念学習も同時に進めなければならない点、専門漢字を含む用語には類語が存在し場面による使い分けを学習する必要がある点など、留学生にとって学習上の負担は小さくない。また、これらの学習、特に専門漢字の読み方の学習が曖昧であると、実習先など医療現場におけるスタッフや患者との意思疎通にも困難をきたし、重大な医療事故にもつながりかねない。

## 2. 目的

国際医療福祉大学（以下、IUHW: International University of Health and Welfare）栃木キャンパス<sup>(1)</sup>は、看護師・理学療法士など医師以外の医療従事者を養成しており留学生も受け入れているが、専門日本語教育のための学習支援策は十分に講じられてこなかった。そこで、専門3科目（解剖学・リハビリテーション概論・公衆衛生学）の専門書を1冊ずつ選び、それぞれの索引に記載された専門用語に使用される出現傾向について調査した。その結果、限られた漢字が繰り返し出現する傾向が認められ、適切に選択した漢字を学習者のレベルに応じて適切に配置することにより学習効率化の可能性が示された（石鍋 2007）。また、この結果を基にパイロット版教材を作成し授業を実施する機会を得て、学期開始時のプレテストと学期終了時のポストテストの結果を検討したところ、授業の効果と教材の有用性が示唆された（石鍋 2008）。

以上のように、適切な漢字を適切に提示することが学習の効率化に寄与する可能性が先行研究より示された。そこで、本研究では、データベースを拡充し、より広い範囲での専門漢字学習支援に貢献するための教材の開発を試みた。

## 3. 方法

石鍋（2007）で対象とした講義科目（解剖学、公衆衛生学、リハビリテーション概論）に医学概論、生理学、臨床心理学を加え、対象を6科目とした。対象6科目は次の基準を設けて選定した。まず、IUHW平成19年度版履修要綱を基礎資料として「専門基礎／学部共通」および「専門基礎」に位置づけられる科目を学科ごとに拾い出した。次に、必修科目に指定されている場合は1点、選択科目に指定されている場合は0.5点とし、学科ごとに集計した。最後に科目別の得点を集計し、合計得点の高い上述の6科目を対象とした<sup>(2)</sup>。

調査対象書籍は専門6科目それぞれ3冊ずつ、合計18冊とした。書籍は全てIUHW図書館所蔵の物とした。表1は、対象書籍の科目別一覧である。

以上のようにして、6科目18冊の専門書籍の索引から専門漢字を抽出し、出現傾向を検討した。専門漢字のレベル分類には、国際交流基金（2006）の能力試験出題範囲を基準とした。次に、対象6科目の専門漢字調査結果に基づき、学習漢字を選定し、教材を試作した。教材は90分×週1コマ×1学期で終了可能な分量とした。

表1 調査対象科目と書籍一覧

解剖学	藤田恒太郎 (1947) 『人体解剖学』 南雲堂 渡辺正仁監修 (1988) 『理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学』 廣川書店 大野忠雄ら訳 (2004) 『トートラ 人体の構造と機能』 丸善
公衆衛生学	星旦二ら (2002) 『系統看護学講座 専門基礎 8 社会保障制度と生活者の健康[2]公衆衛生』 医学書院 鈴木庄亮ら (2005) 『シンプル公衆衛生学』 南江堂 眞野喜洋ら (2002) 『スタンダード公衆衛生学』 文光堂
リハビリテーション概論	砂原茂一ら (1979) 『リハビリテーション概論』 医歯薬出版 林泰史 (1994) 『リハビリテーションマニュアル』 日本醫事新報社 Rothstein JM ら (2002) 『リハビリテーションスペシャリストハンドブック』 南雲堂
医学概論	日野原重明 (1968) 『系統看護学講座 専門基礎 1 医学概論』 医学書院 三上真弘ら (2000) 『リハビリテーション医学テキスト』 南江堂 福祉士養成講座編集委員会編 (2003) 『新版介護福祉士養成講座⑨ 第2版 医学一般』 中央法規出版
生理学	大地陸男 (1997) 『生理学テキスト 第5版』 文光堂 坂東武彦ら監訳 (2003) 『カラー基本生理学』 西村書店 貴邑富久子 (2006) 『シンプル生理学 改訂第5版』 南江堂
臨床心理学	溝口順二ら編 (2001) 『医療・看護・福祉のための臨床心理学』 培風館 大塚義孝編 (2004) 『臨床心理学全書第13巻 病院臨床心理学』 誠信書房 丹野義彦編 (2004) 『臨床心理学全書第5巻 臨床心理学研究法』 誠信書房

## 4. 結果

### 4-1 全体的出現傾向

対象6科目 18冊の漢字出現傾向について調査したところ、延べ約10万字、異なり約1,800字が抽出された。

図1は、異なり約1,800字について、能力試験の範囲内かあるいは範囲外かについて調べた結果である。出現漢字の約半数が1級以上の漢字、2級以上も含めると、約86%を占めた。なお、「第2水準」は常用漢字表表外字のうち1級の出題範囲に含まれるものを指す(国際交流基金2006)。したがって、能力試験範囲外の漢字は、図1に黒とグレーで示したように、約17%(延べ1,800字)であった。

各レベルの分布状況は、石鍋(2007)の調査(範囲外+第1水準約13%、第2水準約1.6%、1級約30%、2級約40%、3級約11%、4級約5%)に近い傾向であった。ここから、医

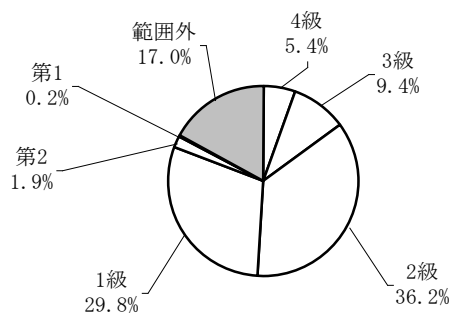


図1 異なり約1,800字のレベル別出現傾向

図中の「4級」～「1級」は、日本語能力試験4級から1級を、「第2」と「第1」は日本語能力試験出題基準のうち第2水準と第1水準を、「範囲外」は日本語能力試験範囲外を示す。

療分野専門の入門期で出現する専門漢字の15%前後（270字前後）は能力試験範囲外、すなわち留学生にとって未習の漢字である可能性が示された。

#### 4-2 出現頻度の概要

各レベルの出現頻度上位10字、50字、100字、200字の段階で延べ字数に対してどれだけの割合を占めるかを表2に示した。4級を見ると、頻度上位10字の段階で延べ字数の約40%を占めた。同様に頻度上位50字の段階で全体の約94%を占めた。

各レベル上位100字の段階では、4級が100%、3級が約94%、2級が約66%、1級が約80%、第1水準と第2水準が100%、範囲外が約90%であった。さらに、200字の段階では、4級が100%、3級が100%、2級が約85%、1級が約93%、第1水準と第2水準が100%、範囲外が約98%であった。1級レベルで考えると、上位200字を学習することによって専門漢字の9割のカバーが可能であることが示された。同様に、能力試験範囲外の漢字であっても適切に選択された200字を学習することによって全体の約98%のカバーが可能であることが示された。

表2 漢字出現頻度各順位が全出現漢字に占める割合（レベル別）

級	出現頻度 上位10字	出現頻度 上位50字	出現頻度 上位100字	出現頻度 上位200字
4級	40.0%	94.1%	100.0%	100.0%
3級	37.4%	77.4%	94.4%	100.0%
2級	20.5%	49.1%	66.4%	84.6%
1級	31.1%	62.3%	79.2%	92.8%
第2水準	85.8%	100.0%	100.0%	100.0%
第1水準	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
範囲外	33.7%	73.7%	89.3%	97.8

#### 4-3 学習漢字の選定

調査結果を基に、学習漢字を306字選定した。選定は、能力試験範囲外の高頻度漢字、第1水準、第2水準の漢字、能力試験1級の高頻度漢字の順で行った。範囲外の漢字であるが、18冊のうち出現度数1の漢字は例外的に出現した可能性も否定できず、また用例の選択も困難であるため、出現度数2以上の漢字とし、203字を選定した。同様に第1水準から出現度数2以上の漢字2字を選定した。次に第2水準から出現度数2以上の漢字24字を選定し、ここまでの合計が229字となった。残りは、能力試験1級の高頻度漢字とした。分割点は、区間推定法により信頼度95%で使用率を推定したところ、出現頻度上位54字～77字（頻度83度～65度）までが同一確率で、出現頻度78字以降で出現確率が変わったため、上位77字目とした。以上のようにして学習漢字306字（[範囲外203字]+[第1水準2字]+[第2水準24字]+[1級77字]）を選定した。

#### 4-4 教材の試作

選定した306字学習用の教材を試作した。教材は、練習パート（課題a～d）、家庭学習用ワークブック、索引（画数順・部首別）から構成した。練習パート第1課の課題a～dの例を図2に、ワークブックの例を図3に、画数順索引の例を図4に、部首別索引の例を図5に示す。

対象はIUHW学部留学生とし、学部入学後できるだけ早い段階で専門性の高い漢字を効率よく学習できる内容であること、週1回（90分）1学期で学習が終了する分量であることを基準とした。以上の基準に基づき、1日4～5字の学習であれば学習上の負担も少なく実現可能であると判断した。週5日学習すると仮定して単純に計算すると、4～5字×5日=20～25字、これを12週実施すると240～300字となり、選定306字の学習上大きな負担はないと判断した。

##### 4-4-1 練習パート

練習パートは、4つの課題（a～d）から構成した。課題aは、学習項目となる見出しの単漢字の読みを確認するものとした。また、学習漢字や用例の読み方は、索引を利用することによって、予習段階で学習者が最低限の情報にアクセスできるようにした。例えば、図2課題aの「脈」は、予習段階で索引（図5最上段）を参照することにより、読みの確認ができ、課題aに取り組む際の障害とならないようにした<sup>(3)</sup>。次の課題bでは、課題aで確認した単漢字をカードに書き出し、ペアで読み方を確認するものである。課題cは、学習漢字が含まれる用例の読み方を確認した後にカードに書き出し、ペアで読み方を確認し合うものである。最後の課題dは、用例中（ ）に正しい漢字を書き込むものとした。練習パートでは、このように[単漢字→専門用語]、[読み→書き]へ移行するように配置した。

練習パートでは、より効率的な記憶の定着を図るため、教室内での学習者のインターアクションを促す課題（b～d）を中心に構成した。例えば、課題cをペアで行うことにより、パートAの学習者は奇数番号の漢字を学習する役割を担う。この時、パートBに奇数漢字の答えを与えることにより、パートBに教師役を担わせることもできる。同様にパートBの学習者は偶数番号の漢字を学習する役割を担う。次の課題dもペアで行うことにより、今度はパートAの学習者が偶数番号の漢字を学習する役割を担うことになる。このように、練習パートは学習項目を繰り返し読み書きすることができるような構成とした。

##### 4-4-2 ワークブック

ワークブックは、主に予習で使用することを目的とした。ワークブックには、見出し、漢字通し番号、画数、部首、レベル、出現領域と出現割合（%）、音読み・訓読み・意味・音符の記入欄、出現頻度記号、用例の読み方記入欄、書き取り練習欄などから構成した。③の「級」と「外」は、見出しの「兎」が能力試験範囲外の漢字であることを示す。また、③の「リハ」と「4.2」は、リハビリテーション概論関連の書籍において「兎」の出現した割合が6科目中全体の4.2%であったことを示す。ここでは、「兎」のほとんどが解剖学で出現(98.5%)する漢字で、その他の科目で出現する可能性は非常に低いことが分かる。このようにどの領域でよく使われる漢字か示し、学習者が各自の専門分野のニーズに合わせて学習項目を取捨選択しやすくなるようにした。

出現頻度記号は、区間推定法による信頼度95%の使用率推定の結果、8%以上を「☆☆☆☆」、6%以上8%未満を「☆☆☆☆」、4%以上6%未満を「☆☆☆」、2%以上4%未満を

**第1課**

課題a. この課で勉強する漢字を確認しましょう。 No.1~No.28

001 筋	002 脈	003 症	004 胞	005 膜	006 障	007 酸	008 髓	009 腸	010 核
011 射	012 視	013 尿	014 素	015 維	016 系	017 護	018 縮	019 肺	020 炎
021 染	022 眼	023 患	024 抗	025 社	026 泌	027 糖	028 甲		

課題b. 読んでみよう①

ペアになってください。Aさんは、「漢字A」の漢字(1~14)を、Bさんは「漢字B」の漢字(15~28)をカードに書いてください(1枚1字)。書き終わったら、お互い読めるか確認しましょう。

漢字A	001 筋	002 脈	003 症	004 胞	005 膜	006 障	007 酸
008 髓	009 腸	010 核	011 射	012 視	013 尿	014 素	

漢字B	015 維	016 系	017 護	018 縮	019 肺	020 炎	021 染
022 眼	023 患	024 抗	025 社	026 泌	027 糖	028 甲	

課題c. 読んでみよう②

下線部の読み方を確認した後、カードに書き出してペアで練習しましょう。

用語c-a

1. 内 <u>筋</u> (001 解)	6. <u>反</u> 射(011 生)	11. 院内感 <u>染</u> (021 公)
2. <u>認</u> 知症(003 生)	7. <u>糖</u> 尿病(013 生)	12. <u>患</u> 者の権利(023 公)
3. <u>粘</u> 膜(005 解)	8. <u>筋</u> 線維(015 生)	13. 児 <u>童</u> 福社法(025 公)
4. <u>酸</u> 素消費量(007 生)	9. <u>訪</u> 問介護(017 公)	14. <u>血</u> 糖値(027 生)
5. <u>大</u> 腸(009 解)	10. <u>肺</u> 活量(019 生)	

用語c-b

1. <u>静</u> 脈(002 解)	6. <u>近</u> 視(012 生)	11. <u>眼</u> 球(022 解)
2. <u>細</u> 胞(004 生)	7. <u>一</u> 酸化炭素(014 生)	12. <u>抵</u> 抗(024 生)
3. <u>障</u> 害(006 リ)	8. <u>交</u> 感神経系(016 生)	13. <u>内</u> 分泌(026 生)
4. <u>骨</u> 髄(008 解)	9. <u>収</u> 縮(018 生)	14. <u>肩</u> 甲骨(028 解)
5. <u>大</u> 脳基底核(010 解)	10. <u>炎</u> 症(020 医)	

課題d. 書いてみよう \_\_\_\_\_に入る漢字を考えて書きましょう。

用語d-a

1. 動_____硬化(002 生) (みゃく)	8. 消化器_____ (016 解) (けい)
2. 小_____ (004 解) (ほう)	9. 筋萎_____ (018 解) (しゅく)
3. 社会保_____制度(006 公) (しょう)	10. 鼻_____ (020 解) (えん)
4. _____腺(008 生) (ざい)	11. 老_____ (022 生) (がん)
5. デオキシリボ_____酸 (010 生) (かく)	12. _____炎症作用(024 解) (こう)
6. _____床(012 解) (し)	13. _____尿器(026 解) (ひ)
7. 医療費の三要_____ (014 公) (そ)	14. _____状腺(028 生) (こう)

用語d-b

1. 骨格_____ (001 生) (きん)	8. 神経線_____ (015 解) (い)
2. 合併_____ (003 医) (しょう)	9. 訪問介_____ (017 臨) (ご)
3. 細胞_____ (005 生) (まく)	10. _____胞(019 解) (はい)
4. 必須アミノ_____ (007 解) (さん)	11. 指定伝_____病(021 医) (せん)
5. 直_____ (009 生) (ちょう)	12. 慢性疾_____ (023 医) (かん)
6. 熱_____病(011 解) (しゃ)	13. 社会福_____ (025 リ) (し)
7. _____管(013 解) (にょう)	14. _____尿病(027 医) (とう)

図2 練習パート 第1課 課題a~dの例

③総画数, 部首, レベル, 6科目の中の出現の割合

②通し番号

①見出し

No.155	画	部首	級	リハ	医学	解剖	公衆	生理	臨床
	8	ツ	外	4.2	0.0	95.8	0.0	0.0	0.0

音: 訓:

意味:

音符 ☆☆

鼠径靱帯【解】: ④用例の読み方記入欄

腸骨鼠径神経【リ】: ⑤音読み・訓読み・意味・音符の記入欄と頻度表示

鼠	鼠	鼠											
---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

⑥書き取り練習欄

備考:

図3 ワークブック

画	見出し	No.	部首	部首画	音	訓	音符	備考	用例1	読み1	出典	用例2	読み2	出典	級
8	鼠	155	ツ	3	そ	ねずみ		【鼠】は異体字。正字は【鼠】。	鼠径靱帯	そけいじんたい	解001	腸骨鼠径神経	ちょうこつそけいしんけい	リ001	外
8	咀	199	口	3	そ	-			咀嚼	そしゃく	生002	咀嚼筋	そしゃくきん	解002	外
8	枕	098	木	4	ちん	まくら(意読)	ニ:チン 沈		視床枕	ししゅうちん	解001	視床枕核	ししゅうちんかく	生001	B
8	房	038	戸	4	ぼう	ふさ	方:ポウ(ホウ) 坊 防 妨		右心房弁	うしんぼうべん	解001	心房細動	しんぼうさいどう	生002	1
8	肪	071	月	4	ぼう	-	方:ポウ(ホウ) 坊 防 妨		中性脂肪	ちゅうせいしぼう	生001	必須脂肪酸	ひつすしぼうさん	解003	1
8	免	060	儿	2	めん	まぬかれる			後天性免疫不全症候群	こうてんせいめんえきふぜんしょうぐん	医003	免疫	めんえき	解003	1
9	俣	212	人	2	-	また		【俣】は国字。	水俣病	みなまたびょう	公001	水俣病	みなまたびょう	医003	外

図4 画数順索引 (=は、枕の音符「宀」)

部首	部首画	見出し	No.	画	音	訓	音符	備考	用例1	読み1	出典	用例2	読み2	出典	級
月	4	脈	002	12	みやく	-			静脈	じょうみやく	解002	動脈硬化	どうみやくこうか	生002	1
月	4	腱	114	13	けん	-	建：ケン	健	腱鞘炎	けんしょうえん	解003	アキレス腱反射	あきれすけんはんしゃ	生003	外
月	4	腺	104	13	せん	-	泉：セン	線	甲状腺	こうじょうせん	解001	前立腺	ぜんりつせん	生002	外
月	4	腔	196	13	ちつ	-		【腔】は正字。 【腔】は異体字。	腔円蓋	ちつえんがい	解003	子宮腔部がん	しきゅうちつぶがん	医003	外
月	4	腸	009	13	ちよう	-	易：チヨウ	暢	大腸	だいちよう	解001	直腸	ちよくちよう	生001	1
月	4	膀	132	14	ぼう	-	旁：ボウ	傍	膀胱括約筋	ぼうこうかつやくきん	解001	膀胱内圧容積関係	ぼうこうないあつよせきかんけい	生001	外
月	4	膠	144	15	こう	にかわ(意読)			膠原線維	こうげんせんい	解003	星状膠細胞	せいじょうこうさいぼう	生001	外

図5 部種別索引

「☆☆」、2%未満を「☆」とした。以上のようにして、学習漢字の出現頻度を学習者が確認できるようにした。

図3、④と⑤の記入欄は、予習段階で学習者が索引を活用することにより学習漢字の基本情報や用例の読み方を調べることができるようにした。⑥は見出し漢字を書いて練習する欄である。

#### 4-4-3 画数順索引

画数順索引は図4に示した通り、画数、見出し、通し番号、部首、部首画数、音読み、訓読み、音符、備考、用例、用例の読み、出典、レベルの情報を記載した。学習者は総画数から学習漢字の読み方などを調べることができる。「音符」の欄には、共通の音符を持つ漢字を記載し、漢字一般の学習への応用も考慮した。「備考」欄は、図4最上段「𠄎」のように正字が存在する場合や、最下段「俁」のように国字で注意が必要な場合などに情報を記載した。用例は全て調査対象とした18冊において出現した用語を採用し、出典を示した。提示の順は、出現頻度の最も高い領域の用語を用例1、出現頻度の2番目に高い領域を用例2とした。

以上のようにして、例えば、前項図3に例示した「𠄎」であれば、図4最上段に示したように読み方などの予習が可能となるようにした。

#### 4-4-4 部種別索引

部種別索引は図5に示した通り、部首、部首画数、見出し、通し番号、画数、音読み、



訓読み、音符、備考、用例、用例の読み、出典、レベルの情報を記載した。ここでは、「にくづき(月)」の漢字を示したが、本索引を利用することにより、どのような部首の漢字が多く出現するかについての傾向を学習することもできるようにした。ここでは、体の一部を表す部首のグループ「耳」「目」「手」や「やまいだれ(疔)」の漢字はどのような意味を持つかなど、形や意味ごとに漢字をグループ分けしながら学習することもできるようにした。

## 5. まとめと課題

本研究では、医療分野の専門漢字学習支援のための教材の開発を試みた。

試作教材では、索引に単漢字および用例の読み方を全て記載した。また、応用力の養成を目的に音符や異体字についての情報も加え、検索機能を強化した。ワークブックは各領域での出現割合を示し、学生の専攻に合わせた学習を自律的に行えるよう意図した。さらに石鍋(2007)で試作した教材はワークブックのみであったが、本研究において試作した教材には練習パートも加え、より効率的な記憶の定着の支援を意図した。本研究において試作した教材の授業での試用および学習効果の検証をさらに重ね、学習者および教育現場に最大還元していく必要があると考えられた。

医療分野を専攻する留学生を対象とした専門日本語教育のための研究や教材の開発は、増田ら(2006)による先駆的な研究成果を皮切りに、永井(2007)による看護師の「申し送り」会話の談話の研究、奥田(2007)による看護師国家試験の語彙分析のようにいくつかの検討が始まりつつある。今後、多方面からの更なる研究の積み重ねが重要であると考えられた。

## 注

- (1) 2008年度現在、栃木県大田原市(3学部9学科)、神奈川県小田原市(1学部3学科)、福岡県大川市(1学部3学科)の3箇所学部キャンパスがある。本研究で対象としている栃木キャンパスは2008年度現在3学部9学科(1)保健医療学部:①看護学科②理学療法学科③作業療法学科④言語聴覚学科⑤視機能療法学科⑥放射線・情報科学科(2)医療福祉学部:⑦医療福祉学科⑧医療経営管理学科(3)薬学部:⑨薬学科から構成されている。
- (2) IUHWにおける科目の位置づけであるが、「専門基礎/学部共通」→「専門基礎」→「専門」の順で右に行くにしたがって専門性が高く、学科の共通性が低くなり、履修配当年次は高学年になる。したがって、本研究で対象とした「専門基礎/学部共通」および「専門基礎」のうちの6科目は、9学科の低学年で共通して履修する可能性の高い入門期の専門科目と位置づけることができる。
- (3) 本稿の例では図5の部首別索引を示したが、画数順索引からの検索も可能である。

## 参考文献

- (1) 石鍋浩(2007)「コメディカル専門語彙に使用される漢字の出現傾向調査—留学生向け学習漢字の選定とワークブックの試作(第1報)—」『国際医療福祉大学紀要』第12巻第2号 63-71

- (2) 石鍋浩 (2008) 「医療・福祉分野を専攻する留学生のための専門用語の漢字授業の実践」茨城大学留学生センター紀要 第6号 1-11
- (3) 井上貴央監訳 (2003) 『カラー 靱帯解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで』西村書店 147
- (4) 国際交流基金 (2006) 『日本語能力試験 出題基準〔改訂版〕』凡人社 5,39-51
- (5) 大塚義孝編 (2004) 『臨床心理学全書第13巻 病院臨床心理学』誠信書房
- (6) 大野忠雄ら訳 (2004) 『トートラ 人体の構造と機能』丸善
- (7) 奥田尚甲 (2007) 「看護師国家試験の語彙とその分析」『2007年度日本語教育学会秋季大会予稿集』247-248
- (8) 貴邑富久子 (2006) 『シンプル生理学 改訂第5版』南江堂
- (9) 鈴木庄亮ら (2005) 『シンプル公衆衛生学』南江堂
- (10) 砂原茂一ら (1979) 『リハビリテーション概論』医歯薬出版
- (11) 大地陸男 (1997) 『生理学テキスト 第5版』文光堂
- (12) 丹野義彦編 (2004) 『臨床心理学全書第5巻 臨床心理学研究法』誠信書房
- (13) 永井涼子 (2007) 「看護師による「申し送り」会話の談話管理—スタイルシフトを中心に—」『日本語教育』135 80-89
- (14) 林泰史 (1994) 『リハビリテーションマニュアル』日本醫事新報社
- (15) 坂東武彦ら監訳 (2003) 『カラー基本生理学』西村書店
- (16) 日野原重明 (1968) 『系統看護学講座 専門基礎1 医学概論』医学書院
- (17) 福祉士養成講座編集委員会編 (2003) 『新版介護福祉士養成講座⑨ 第2版 医学一般』中央法規出版
- (18) 藤田恒太郎 (1947) 『人体解剖学』南雲堂
- (19) 星旦二ら (2002) 『系統看護学講座 専門基礎8 社会保障制度と生活者の健康[2]公衆19衛生』医学書院
- (20) 増田光司・佐藤千史・中川健司・隈井正三 (2006) 『留学生のための二字漢字に基づく 基礎医学術語学習辞典 日本で働く医療関係者のために』凡人社
- (21) 眞野喜洋ら (2002) 『スタンダード公衆衛生学』文光堂
- (22) 三上真弘ら (2000) 『リハビリテーション医学テキスト』南江堂
- (23) 溝口順二ら編 (2001) 『医療・看護・福祉のための臨床心理学』培風館
- (24) 渡辺正仁監修 (1988) 『理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のための解剖学』廣川書店
- (25) Rothstein JM ら (2002) 『リハビリテーションスペシャリストハンドブック』南雲堂